

自己改革

JA 兵庫六甲では、第4次5か年計画「'21 ビジョン」を掲げ、自己改革に取り組んでいます。
すべての農業者が安心して継続的に農業を営めるよう、
組合員の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化を最優先課題として、
組合員・地域住民と共に地元の農業を盛り上げていきます。

「'21 ビジョン」主な数値項目の進捗状況の報告

営農経済活動

項目	2017 年度実績	2018 年度実績	2021 年度目標
販売高(米・青果・花卉・肉牛)	153 億	147億円	180 億円
販売高 3000 万円農家数	14 戸	21戸	44 戸
【米】直接販売率(うるち・もち米)	88.2%	88.7%	98.0%
【青果物】直接販売率	68.8%	73.6%	70.0%
直売所来店者数	2,328 千人	2,215千人	2,844 千人
直売所出荷者数	2,781 人	2,756人	2,940 人
集落営農とりくみ集落数	110 集落	113集落	160 集落
水稻生産コスト削減率	実施中	実施中	△15.0%

資産管理活動

項目	2017 年度実績	2018 年度実績	2021 年度目標
農地に関する相談(貸農園・農作業受託取次等)	47 件	57件	24 件
農地法・生産緑地法等に関する研修会	47 回	43回	8 回
相続シミュレーション作成件数	263 件	270件	200 件
賃貸住宅入居率	91.8%	93.2%	90.0%以上
記帳代行サービス契約件数	592 件	618件	650 件
資産管理購買取扱高	47 億円	38億円	40 億円
(うちリフォーム取扱高)	16 億円	17億円	17 億円

生活文化活動

項目	2017 年度実績	2018 年度実績	2021 年度目標
支店マルシェ等農業イベントの開催拠点数	43 支店	47支店	56 支店
食農教育活動	461 回	348回	300 回
農業向け融資の取扱	92 件	(累計)211件	5 年間で 500 件
農業金融プランナー資格保有者	90 人	(累計)101人	5 年間で 150 人
貸出金残高(地方公共団体向けを除く)	3,350 億円	3,472億円	3,362 億円
資産管理相談活動を通じた各種ローン取扱数	38 件	42件	100 件
貯金残高(地方公共団体向けを除く)	1 兆 2,888 億円	1兆3,037億円	1 兆 3,759 億円
共済契約者数	95,895 人	96,560人	100,000 人

組合員の所得増大

「栽培面積を拡大し、もっとたくさんの人に農畜産物を届けたい」と挑む生産者の皆さんを販売面・資金面など多面的にサポートしました。

◆都市部進出の拠点 マチマルシェ御影◆

取引先企業・組織

ホテルや料亭・自治会など **12 組織**
(2019年3月末)



販売高



◆安定した農業経営をサポート◆

農業資材低価格化の実現

主要銘柄について
地域内のホームセンターなど
15 店舗の価格調査
(2018年9月)

	高度化成オール 14 (20 kg)	ジェイエース 3 kg (オルトラン)
JA 兵庫六甲	1,280 円	1,750 円
量販店 (平均)	1,434 円	2,293 円

(2018年9月現在)

◆総合事業体の有利性を活かしたサポート◆

農業資材購入資金のサポート

JAバンク事業
216 件
5,900 万円
(2017年度～2018年度)



農業設備設置資金のサポート

農業施設貸与事業
48 件
10,800 万円
(2018年度)



農業生産の拡大

栽培指導や品種の提案、農地の活用方法や栽培に係る費用など、どんなことでも相談していただける体制づくりに努めるとともに、「新たな品目に取り組みたい」「もっと収量を増やしたい」など、組合員の挑戦を支援しました。

栽培に係る労力の削減

共同利用施設の運営によって
時間と労力を削減

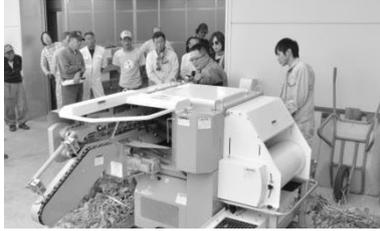
コマツナ農家
A 様の場合

	撰果場利用前	撰果場利用後
ハウス回転数	5.4 回/年	5.8 回/年
出荷重量	10,296 kg/年	13,503 kg/年

(2018年度)

新たな共同利用施設で産地力UPを目指す

枝豆機械共同利用施設
三田ビーンセンター
2018年10月開設



100本の黒大豆
枝豆を2名で
調製する場合

	ビーンセンターの利用	
	なし	あり
サヤ取り	100分	20分
選別	45分	35分
袋詰め	140分	45分
合計	285分	100分

危機を乗り越えるサポート

台風や地震など自然災害が
相次いで発生した2018年度。
対策情報の発信や事後対策の支援を実施しました。

慶弔見舞金 **400** 万円 (2018年度)

都市の農地を保全し営農をサポート

農地保全、安定的な農業経営の
課題は地域によってさまざま。
地域特性に応じた相談活動を行います。

都市農地相談センター 2019年3月開設

地域の食の安全と環境を守り、生産者と消費者、それぞれの
思いを共有する場の創出に努めました。地域農業の重要
性を広め、未来に繋がります。

地域の活性化

地域交流拠点のステップアップ

もっと「思い」が伝わる店舗を目指して2店舗がリニューアルオープン

スマイル阪神 2018年11月



御影キッチン 2019年3月



地産地消運動の促進



マルシェ実施回数

267 回

新規インショップ提案件数

40 回

支店農産物販売

215 回

